

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	フォレストキッズ千種教室
------	--------------

公表日 2026年 3月 11日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		発達支援室の広さや構造を踏まえ、個別療育と集団活動のスペースを区分し、児童が落ち着いて活動できる環境づくりを行っています。	今後も安全性や集中しやすさを考慮し、利用定員とスペースのバランスを定期的に確認していくことが課題です。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		個別療育を基本とし、児童の状況に応じて複数職員で対応するなど、安全面や支援の質を確保できる体制づくりを心がけています。	利用児の特性や支援ニーズによっては、より手厚い支援が求められる場面もあるため、職員間の連携や役割分担をさらに明確にしていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		活動内容を理解しやすいよう、学習スペースと遊びのスペースを分けるなど環境の構造化を行っています。また、視覚的なスケジュール提示や教材の配置を工夫し、安心して活動できる環境づくりに努めています。	児童の特性や発達段階によって環境の分かりやすさに差が出ることもあるため、個々に応じた環境調整をさらに検討する必要があります。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		日々の清掃や整理整頓を徹底し、こどもたちが安心して過ごせる清潔で落ち着いた環境づくりを心がけています。	今後も安全面や快適さに配慮し、より過ごしやすい環境づくりを進めていくことが課題です。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		周囲の刺激を減らし落ち着いて活動できる場所を確保することで、こどもが安心して課題に取り組みめるよう配慮しています。	利用児の状況や時間帯によっては個別スペースの確保が難しい場合もあるため、空間の使い方や活動の調整を引き続き検討する必要があります。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		支援の質の向上を目的として、目標設定や振り返りの機会を設け、職員間で情報共有を行っています。日々の支援の記録やケース検討を通してPDCAサイクルを意識した業務改善に取り組んでいます。	今後も定期的なミーティング等を通して、継続的に改善に取り組む体制を整えていくことが課題です。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		いただいたご意見は職員間で共有し、支援内容や事業所運営の見直しにつなげることで、より良い支援の提供ができるよう努めています。	評価結果を職員全体で十分に共有し、具体的な改善につなげていく仕組みをさらに強化していきます。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		現場での支援の振り返りや課題を共有し、支援方法や業務の進め方の見直しなど、業務改善につなげるよう努めています。	業務の状況によっては十分に意見交換の時間が取れないこともあるため、より多くの職員が意見を出しやすい機会を増やしていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7		現状では第三者評価を実施する体制が十分ではないため、今後は外部評価の活用方法について検討していく必要があります。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		職員の専門性向上のため、外部研修への参加を促すとともに、法人内での研修や資料共有を行い知識の習得に努めています。	今後も計画的な研修機会の確保や情報共有の充実を図り、職員全体の資質向上につなげていくことが課題です。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		こどもの発達段階や特性、アセスメントの結果を踏まえ、一人ひとりに応じた支援プログラムを作成しています。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		こどもの発達状況や特性を把握するためにアセスメントを行い、保護者からの聞き取りや日々の支援の様子を踏まえてニーズや課題を整理しています。	今後も職員間で情報共有を行い、より客観的な視点でニーズや課題を整理
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		こどもの発達状況や保護者の意向を踏まえ、共通理解のもと最善の利益を考慮した計画作成に努めています。	支援に関わる職員全員がより積極的に意見を出し合える体制づくり。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		作成した児童発達支援計画については、職員間で共有し、支援の目標や内容を共通理解した上で日々の療育に取り組んでいます。	支援の実施状況について職員間での共有をより充実させ、計画内容をより具体的に日々の支援に反映していくことが課題です。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		こどもの発達状況や適応行動を把握するため、アセスメントシート等を活用するとともに、日々の支援場面での行動観察を行いながら状況を確認しています。	アセスメント結果を職員間でより共有し、支援に十分に反映できるよう体制を整えています。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		児童発達支援計画の作成にあたっては、アセスメント結果や保護者の意向を踏まえ、「本人支援」「家族支援」「移行支援」等の視点を意識しながら支援目標を設定しています。その上で、こどもの発達段階や特性に応じた具体的な支援内容を検討し、計画に反映するよう努めています。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		活動プログラムについては、職員同士で情報共有や意見交換を行いながら検討し、こどもの発達段階や興味関心に応じた内容を立案するよう努めています。	より多くの職員が関わられるよう情報共有や話し合いの機会を充実させていくことが課題になります。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		こどもの発達段階や興味関心、支援目標に応じて活動内容を見直し、教材や遊びを工夫しながら活動プログラムを実施しています。同じ内容に偏らないよう変化を持たせた支援を心がけています。	今後も職員間で情報共有や意見交換を行いながら、新しい教材や支援方法も取り入れ、より多様な活動プログラムを提供できるよう工夫していきます。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		こどもの発達段階や特性に応じて個別活動と集団活動を適切に組み合わせた支援を行っています。個別療育で身につけた力を集団活動の中でも活かせるよう計画を作成し段階的に社会性を育てよう努めています	こどもの状況によっては活動のバランス調整が難しい場合もあるため、個々の発達状況を丁寧に把握しながら支援内容を見直していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		事前に共通理解を持つことで、職員同士が連携しながらこどもにとって適切な支援が行えるよう努めています。	業務状況によっては打合せの時間が十分に確保できない場合もあるため、効率的な情報共有の方法を工夫していく必要があります。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		気付いた点や良かった対応を職員同士で確認することで、次回の支援に活かし、チームでより良い支援が行えるよう努めています。	今後も職員間での情報共有を充実させ、支援の質の向上につなげていくことが課題です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録を基に支援の振り返りを行い、こどもの変化や課題を確認しながら、より適切な支援方法の検討や改善につなげるよう努めています。	記録内容を職員間で十分に活用できるよう、共有や振り返りの機会をさらに充実させていくことが課題です。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的にモニタリングを行い、こどもの発達状況や支援の実施状況を確認しています。必要に応じて計画内容の見直しを行い、より適切な支援につなげるよう努めています。	今後も職員間で情報共有を行いながらモニタリングの内容を支援に十分反映し、継続的な支援の改善につなげていくことが課題です。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		サービス担当者会議や関係機関との会議には、こどもの日々の様子や支援内容を把握している職員が参加するよう努めています。	会議の内容を事業所内の職員全体により十分に共有できるよう、情報伝達の方法を工夫していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	こどもの状況に応じて、保育・教育等の関係機関と情報共有を行いながら支援を進めています。	関係機関との連携をより円滑に進めるため、情報共有の機会や方法をさらに充実させていく必要があります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7		必要に応じて関係機関と情報共有を行い、支援内容やこどもの状況について相互理解を図りながら、継続した支援につなげるよう努めています。	関係機関との連携をより円滑に進めるため、情報共有の機会や方法をさらに充実させていくことが課題です。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3	移行シートなどを活用し関係機関と連携しながら、こどもが安心して新しい環境に移行できるよう支援しています。	今後よりいっそう関係機関との連携を強化し、円滑な移行支援につなげていくことが課題です。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		7		児童発達支援センターとの連携や助言を受ける機会を設けて、専門的な視点を支援に活かしていくことが課題です。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		7		地域のこどもの交流の機会については十分ではないため、今後は関係機関との連携を深めながら、地域の中で交流できる機会を検討していく必要があります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		保護者からも家庭での様子を伺いながら情報共有を行い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう努めています。	今後も保護者との信頼関係を大切にしながら、こどもの成長を共に支えているよう取り組んでいくことが課題です。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	保護者との日々のやり取りや面談の機会を通して、家庭での関わり方や支援のポイントについて情報提供を行っています。また、家庭でも無理なく取り組める関わり方をお伝えしています。	ペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムや研修の機会については、今後さらに充実させていく必要があります。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		利用開始時には、運営規程や支援内容、利用者負担等について丁寧に説明を行い、保護者に理解していただいた上でサービスの利用につなげています。また、不明点があれば随時説明を行います。	今後も保護者の理解を深められるよう、丁寧な説明と情報提供を継続していくことが課題です
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		こどもの発達状況や特性を踏まえながら、最善の利益を考慮した支援計画の作成に努めています。	こどもや保護者の思いをより丁寧に把握できるよう、面談や相談の機会をさらに充実させていく必要があります。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7		児童発達支援計画を作成した際には、保護者に計画内容を丁寧に説明し、支援の目標や具体的な支援方法について理解していただくよう努めています。	保護者との対話を大切にしながら、十分な理解と同意のもとで支援を進められるよう取り組んでいくことが課題です。	
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		日頃から保護者とのコミュニケーションを大切に、支援時や面談の機会を通して子育てに関する悩みや相談に応じています。	今後も保護者の思いに寄り添いながら、継続的な支援や助言につなげていく時間を作っていきます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	保護者からの相談や悩み寄り添いながら、安心して話し合える関係づくりを大切にしています。	保護者会やきょうだい同士の交流の機会については、十分に実施できていない部分もあるため、今後は保護者同士がつながれる機会づくりを行っていきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		支援時や面談等を通して相談内容を丁寧に伺い、必要に応じて職員間で共有しながら迅速かつ適切に対応できるよう努めています。	今後よりいっそう、相談や申入れに対して迅速に対応できる体制を整え、安心して相談できる環境づくりを進めていくことが課題です。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		事業所からのお知らせや活動の様子について、SNS等を活用しながら保護者へ情報発信を行っています。	情報発信の内容や方法について、保護者がより確認しやすい形となるよう工夫していく必要があります。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報の取扱いについては、職員間で十分に注意しながら管理を行っています。また鍵やパスワード管理も徹底しております。	個人情報保護の重要性について、職員間での意識を継続して高めていくことが必要ですので、引き続き研修等で啓発していきます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		子どもの発達段階や特性に配慮し分かりやすい言葉や視覚的な提示などを用いながら意思の疎通を図っています。保護者に対しても説明や情報共有を行い安心して支援を受けていただけるよう努めています。	子ども一人ひとりの特性に応じた伝え方や情報提供の方法を、さらに工夫していく必要があります。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		7		地域住民を招いた行事等については十分に実施できていないため、今後は地域との交流の機会を検討していく必要があります。地域に開かれた事業所となるよう、地域とのつながりを広げていくことが課題です。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		事故防止や緊急時対応、感染症対策等に関するマニュアルを整備し、職員間で内容を共有、訓練を実施しています。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		非常災害時に備え、業務継続計画（BCP）の内容を踏まえながら職員間で対応方法を共有しています。また、避難経路や安全確保の方法を確認し、定期的に避難訓練等を行っています。	今後も災害を想定した訓練を定期的に行い、より実践的な対応ができる体制づくりを進めていくことが課題です。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		利用開始時や面談の機会を通して、服薬の有無や予防接種の状況、てんかん発作等の健康状態について保護者から情報を確認しています。	
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		食物アレルギーのある子どもについては、事前に保護者から状況を確認し、必要に応じて医師の指示書等を踏まえながら対応しています。	
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、事故防止や緊急時対応など安全管理に関する内容を職員間で共有しています。研修や訓練等を通して安全意識を高め、子どもが安心して活動できる環境の中で支援を行えるよう努めています。	安全計画の内容を職員全体で継続的に確認し、研修や訓練の機会をさらに充実させていく必要があります。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		日頃から情報共有を行い、家庭と連携しながら安全に配慮した支援が行えるよう努めています。	安全計画の内容や取り組みについて、保護者へより分かりやすく周知していきます。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		日々の支援の中で気付いたヒヤリハットについては記載をして職員間で共有し、事故につながるよう注意喚起を行っています。	ヒヤリハットの共有だけでなく、再発防止に向けた具体的な対策について職員間で継続的に検討が必要です。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待防止の重要性について職員間で共有し、研修や資料を通して理解を深めるよう努めています。	今後も研修等を通して理解を深め、適切な支援が行える体制づくりを進めていくことが課題です。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		身体拘束については原則行わないことを基本とし、やむを得ず必要となる場合には組織内で十分に検討した上で対応するようにしています。	身体拘束に関する考え方や対応方法について、職員間で継続的に確認し理解を深めていく必要があります。	